

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第1回上尾市社会教育委員会議		
開 催 日 時	令和6年7月18日（水曜日）午後2時から4時4分まで		
開 催 場 所	上尾公民館 講座室401		
議 長 氏 名	首藤 敏元		
出席者(委員)氏名	近藤 博昭、中島 晴美、曾我部 延孝、山下 文孝、清水 和子、 清水 松代、酒井 剛志、鈴木 茂、桑原 明子、首藤 敏元、 若原 幸範 (11人)		
欠席者(委員)氏名	洞派 英樹、須賀 聡 (2人)		
事務局(庶務担当)	加藤教育総務部長、池田教育総務部次長、白石生涯学習課長、 山内図書館長、小宮山副主幹、椎名副主幹、田中副主幹、目黒主任		
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果	
	1 委嘱・任命式 2 令和6年度第1回上尾市社会教育委員会議 (1) 令和6年度社会教育関係事業について (2) 令和6年度社会教育関係団体補助金について (3) 上尾市生涯学習に関するアンケート調査について (4) その他	1 議長 首藤 敏元 副議長 近藤 博昭 2 議事 内容説明及び質疑応答	
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数	1名
会 議 資 料	別紙のとおり		
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 7 年 7 月 8 日 議長の署名 <u>首藤 敏元</u>			

議 事 の 経 過

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
生涯学習課長	上尾市社会教育委員 任命式 本日は御多用の中を御出席いただきましてありがとうございます。本日、司会進行を務めさせていただきます生涯学習課長の白石でございます。 本日は、委員の須賀様、洞派様が欠席となっておりますので、ご報告申し上げます。
教育長	1 開式 ただいまから、令和6年度上尾市社会教育委員の委嘱・任命式を行います。
教育長	2 委嘱書・任命書の交付 ＜西倉教育長から委員に委嘱書、任命書を交付＞
教育長	3 教育長挨拶 ＜西倉教育長挨拶＞
生涯学習課長	4 閉会 ありがとうございました。 以上を持ちまして、上尾市社会教育委員委嘱・任命式を閉会します。 （午後2時09分終了）
	第1回社会教育委員会議
生涯学習課長	1 開会 引き続き、令和6年度第1回上尾市社会教育委員会議を開催します。
生涯学習課長	2 委員および職員紹介 ＜委員自己紹介＞ ＜事務局自己紹介＞
生涯学習課長	3 議長・副議長の選出について 次に、議長、副議長の選出に移らせていただきます。 上尾市社会教育委員会議運営規則 第2条第1項の規定によりまして、委員の皆様のご互選により選出することとなっておりますが、いかがでしょうか。
曾我部委員	事務局一任でお願いしたいと思います。
生涯学習課長	事務局としましては、首藤委員に議長を、近藤委員に副議長をお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

委員	はい。＜会場拍手＞
生涯学習課長	それでは、議長・副議長が決まりましたので、席のご移動をお願いできればと存じます。
生涯学習課長	3 議長・副議長就任挨拶 それでは、議長、副議長より、ご挨拶いただければと存じます。
首藤議長 近藤副議長	＜議長挨拶＞ ＜副議長挨拶＞
生涯学習課長	ありがとうございます。 教育長につきましては、次の公務がございますので、ここで退席させていただきます。
首藤議長	それでは、ここからは議長に進行をお願いしたいと存じます。 「上尾市社会教育委員会議運営規則」第3条の規定から委員の半数以上の出席が必要となります。委員総数13名のうち11名の方が出席していますので、この会議が成立することをご報告いたします。
生涯学習課 主任 首藤議長	本日、傍聴の方はいますか。 1名の傍聴希望者がいます。 許可しますので、ご案内してください。
首藤議長	＜傍聴人 入室＞ 傍聴の方にお願ひします。会議を傍聴される方は、傍聴に当たっての注意事項をお守りになり、傍聴をお願いします。
首藤議長	4 議事 (1) 令和6年度社会教育関係事業について (2) 令和6年度社会教育関係団体補助金について
生涯学習課副 主幹	それでは議事に沿って進めさせていただきます。 「(1) 令和6年度社会教育関係事業について」、事務局の説明をお願いします。
図書館長	令和6年度社会教育関係事業についてと関連がございますので、「(2) 令和6年度社会教育関係団体補助金について」も一括してご説明させていただきます。 ＜令和6年度生涯学習課事業説明＞ ＜令和6年度社会教育関係団体補助金について説明＞
図書館長	＜令和6年度図書館事業説明＞

首藤議長	(1)(2)とまとめて事務局から説明をしてもらいました。 (2)の補助金について、今年度はこれで動いている、案ではないということですのでよろしいですね。次回の委員会で来年度に向けた案が出るということですのでよろしいでしょうか。
生涯学習課副主幹 首藤議長	はい。 委員の皆様、ご意見ご質問等ございますか。
若原委員	実施講座数がかなり少ないものもあるように見受けられます。 例えば別冊資料1の1-A-4「福祉に関する教育・啓発」講座は1件、B-4「society5.0に対応した事業」は0件ですが、たまたま今年度が少ないという理解でよいのでしょうか。
生涯学習課副主幹	1-A-4につきましては、別冊資料に載っているのは公民館事業のみという形になっていて、今年度、たまたま事業数が少なくなっています。 B-4「society5.0に対応した事業」につきましては、生涯学習課としてもまだどういった形で実施できるか決めきれていないところです。公民館事業というよりは、生涯学習課事業として何かできないか検討しています。 Chat GPTや、AI活用に関する事業を何かできないか考えているところです。
若原委員	関連しますが、会議資料10ページ「施策の柱3-1」の「ICTを活用した学習相談や学習支援サービス」がまだ検討中ということですが、計画期間がだいぶ終盤に近づいていますので、検討の経過と今後の予定を教えてください。
生涯学習課副主幹	ICT、AIを活用した事業ができればよいと考えていますが、上尾市全体として活用が進んでいないところがあります。現状、生涯学習課として、他市のホームページ等で生涯学習の案内について、オンライン申請をどうしているか等を見ているところで、川口市や戸田市がホームページをうまく活用しているので、参考にできないか検討しています。
清水(マ)委員	12ページ「施策の柱3-3 上尾の未来へつなぐ」の「こども大学」について。いろいろな会場で、長い日数をかけて取り組んでいると思いますが、これは例年同じように行われていますか。
生涯学習課副主幹	子ども大学は10年目の事業です。元々はNPO法人こども大学川越というところが子ども大学を開催していて、それを当時の県知事がその事業を知って、埼玉県生涯学習推進課にこの事業を県内で広めるように大号令があり、県内で大学のある市町村、ない市町村、いくつかの市町で合同で子ども大学の実施を進めて、現在は県内のほぼ全ての市町村で子ども大学が開催されています。「子ども大学あげお・おけがわ・いな」は上尾市、伊奈町、桶川市の2市1町合同で、日本薬科大学（伊奈町）、聖学院大学（上尾市）と実行委員会を開き、事業を行っています。 「あげお子ども大学」については、「子ども大学あげお・いな・おけがわ」

	を開始した当初、定員 60 名に対し上尾市内の児童の申し込みが 60 名以上あったことと、聖学院大学と日本薬科大学大学の専門分野以外の分野も子どもたちに学んでほしいという思いがあり、様々な専門の学びを提供できる場として上尾市独自で開催しています。
清水(マ)委員	これだけの日数をかけてやるということは、「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の一つの特色であるということでしょうか。 「子ども大学あげお・いな・桶川」が始まった初年度は 1 日だけで終わってしまったので、今回のように、毎回興味深いテーマを盛り込んで、様々な学びができる場所を作ってくださっていることはとても良いことだと思います。これだけの日数を続けていくとなると、いろいろと大変だと思いますが、できれば続けていってほしいと思います。
酒井委員	5 ページの「放課後子供教室」は市内に 2 か所で実施しているということですが、増やす予定はありますか。
生涯学習課副主幹	小学校に空き教室がないことから、上尾市としては、公民館が隣接する小学校 2 校でということと、令和 2 年から始めている事業です。他の公民館と小学校は距離があるため、今のところ増やすことは難しい状況です。現在、小学校に空き教室の状況を聞いたり、現在公民館で実施している講座を隣接する小学校の敷地内で実施できないか検討しているところです。
酒井委員	今の話だと、場所があれば他の小学校でもできるということでしょうか。人はいる？
生涯学習課副主幹	正直に言うと足りない状況です。コーディネーター 1 名、サポーター 10 名でやっていますが、募集してもなかなか集まらないことと、どなたでもよいとは言えない事業で、子どもの学び、育ちのことをよく知っている方でないとなかなか任せることができないので、いろいろなところからご紹介をいただきながらお願いしているという状況です。 現在は実施できていますが、教室を増やすとなると人材が足りなくなると思われます。
鈴木委員	新座市や桶川市等、いろいろなところで放課後子供教室をやっているが、そういうところは、学校で、いわゆる預かりの施設のような形で行っている。ところが上尾市は公民館の事業でやっていて、全く違う。 いわゆる他市がやっているような、本来の放課後子供教室をやろうとしているのか、また、やるとしたらどこが担当するのかをお聞きしたい。
教育総務部長	鈴木委員からお話があったように、学校に空き教室があれば、そういった方向でもできればいいかなと考えています。 ただ、空き教室を使うとなると、学校側の管理の問題や、コーディネーター等、様々な課題がありますので、まず我々が今、行っているのは、学校を使って実施できるのかどうかというところで、校長先生等に聞き取りをしているところです。そこで、提供していただけたら、そこから、コーディネーター等をやっていただけた方を見つけていくので、すぐにできるというものではないと考えております。

	引き続き、学校を使った居場所づくりをどのようにやったらよいか検討していきます。
鈴木委員	さいたま市には各学校に、地域の人と結びつくコーディネーターがいる。上尾市もそういうコーディネーターを各学校において、地域との結びつきを強めていくという方針を持った方がいいと私は思うが、見解を聞かせていただきたい。
加藤部長	おっしゃる通りだと思います。
首藤議長	上尾市は全部コミュニティスクールになっています。まさにコミュニティスクールですから、うまくできそうな基盤はできてるのかなと思うので、動ける、動く人、意欲のある人をどう掘り起こすのかというところかと思います。
近藤副議長	鈴木さんのご意見、体系的に考えたときに、どこが管轄するのかという話ですよね。 結局ここで話をしているところは、社会教育の範疇で話をしている。しかもどちらかというと公民館寄りの教育という形の中でやっているけど、本来これをすべき場所なのかという、そういう問いでもあると思う。 大きく見ていくと、学校教育の延長上にある、学童保育を含めて、ある意味で言えば、その学校教育でフォローしていく部分で考えていくべきなのか。それとも、今おっしゃったように、子どもの居場所作りから延長していった、その受け皿になっていた公民館が、何とかそれを形にしていこうというような状況のところ、経過措置みたいな状況なので、なかなかそういう意味では、上尾市の教育全体をどういうふうにとらえるかというところから考えていかないと難しいのかなという気がします。 自分も放課後子供教室講師のボランティアを経験させていただきましたが、ボランティアさんたちは大変です。学校から子どもが公民館に帰ってくる時間はみんな違って、講座の前に宿題をさせたり、講座が始まる時には子どもたちを同じ方向にもっていきつつ、興味のある事業を展開していかなければならない。子どもなので、どんな動きをするかもわかりませんから、家に帰すまで懸命にやってくださっているというのが現状です。
首藤議長	放課後子供教室はいろんな世代の方が交流できる貴重な場だと思いますので、課題はありますけれども、少し広げていきたいなと思います。
若原委員	少し関連するのですが、放課後子供教室そのものの位置づけは検討の余地があると思いますが、先ほど話題に上がったコーディネーターの件で。あれは地域学校協働活動推進員に当たると思うので、これは社会教育の範疇だと思います。その点は上尾市ではどのように推進員の委嘱なり、あるいは養成なりを取り組んでおられるのか教えていただければと思います。
生涯学習課副主幹	放課後子供教室のコーディネーターにつきましては、生涯学習課の方から依頼をしています。地域学校協働活動推進員は学校教育部の指導課の方になります。

近藤副議長	コーディネーターという言葉は同じでも、内容が違う。学校教育の中で、コーディネーターという形で位置づけされているものと、今我々がここで話しているコーディネーターは内容が違うということですね。
中島委員	放課後子供教室は学校教育の延長ではないということをはっきりした方がよいと思います。文部科学省の言っている学校の仕事の範囲の中には入ってきていない。それから放課後子供教室の実施については、各市町村の各課で実施するようにと県のホームページに載っています。 それと、コーディネーターという言葉が二重に出ているのですが、学校で使っているコーディネーターという言葉は、学校運営協議会と言って、学校運営協議会の中とそれから学校応援団の方で応援団をまとめてくれるコーディネーター、ということで、学校と指導課が携わっているのはそちらかだと思います。 それから、学校施設を使用する問題点として、今は特別教室にもエアコンが入っていない状態で、そこに、空き教室にエアコンをつけるとなると、さらにまた違う問題が出てくるかと思います。学校に通っている子ども優先にエアコン設置が必要となってくるところかと思います。
首藤議長	むしろ放課後子供教室のような、多岐にわたった新しい事業が入ってくると、教室がいろいろと多機能になってくるので、エアコンも入れやすくなるのではないかと思います。課題はいろいろとありますが、大事な部分かなと思います。 上尾市では登校時間が遅くなり、それに伴い保護者からクレームは出ていませんか。 自治体によっては、保護者が子どもの登校時間が遅いために出勤時間を遅らせなければならないということで、企業が入って朝の預かりサービスを始めたところがあるのですが、上尾市ではそのような登校時の課題は出てないですか。
中島委員	正直、あります。駅近の学校だと、都内に通勤している保護者さんもいて、地域差もあります。学校長として、地域、PTAと話し合いながら調整をしています。ただし、8:15 前というのは、教員はボランティアになってしまいますので、子どもが学校に来てから 8:15 までの時間は空白の時間になってしまいますので、何か事故がおこったときの責任の所在の問題もあるので、8:15 以降の登校となることが望ましいと思います。 ご家庭の事情もあるとは思いますが、スクールゾーンの時間帯前に登校するような問題もあります。県南部の市では 8 時過ぎの登校になっているが上尾市は未だに 7:30 登校と言われているので、変えていければいいと思っています。
首藤議長	かつては登校、下校、すべての部分を全部学校が担ってきたわけですが、これからはそうはいきませんので、学童の問題もそうですが、子どもが安全に生活できるような社会にするためには、もしかしたら社会教育が関われる余地がないかなとは思ってるところではあります。 係、課の違いや、場所の問題など、いろいろな課題がありますが、それを課題であると認識しながら、少しでも解決できるような努力をしていかなければならない。一つはコーディネーターをどのようにその人材を出していく

	のかということが課題かなと思います。 コーディネーターとも関係しますが、社会教育指導員の技術向上という取り組みがある。上尾市は社会教育士をどのように養成されているのでしょうか。
生涯学習課副主幹	我々は社会教育主事になるのですが、できれば毎年資格を取っていただくような仕組みを増やしていきたいと考えています。 昨年度、目黒主任が受講し、資格を取得しました。今年度は私が受講しているところでございます。 社会教育士のリストを国からもらっているわけではないので、そういう方々を公民館の業務に入っていただくことは難しい状況ですが、生涯学習課職員に社会教育主事の資格を取っていただいて、資格を活かせるようなことを今後、考えていきたいと思います。
首藤議長	主事はかなりハードルが高いですが、社会教育士は講習をいくつか受けることで社会教育士になれる。そういう新しい資格を国が用意していると思います。そういう資格を持った方を増やしていくというのも、長期的には必要かと思っています。
首藤議長	上尾の摘田・畑作が国指定の文化財になっていますが、それは今どこにあるのでしょうか。
生涯学習課副主幹	学校の方に保管してあるのですが、同じような種類で活用用に収集した資料を、去年の12月にリニューアルオープンした自然学習館の展示コーナーに上尾の畑作用具を広く市民に知っていただけるようにスペースを作っています。その中では、指定物件とは違うものですが、同じものが体験できるようなコーナーを作っておりますので、学校教育等でも活用していただきたいなと思っています。
首藤議長	なかなかそういうところを、まだまだ広く市民に知られてないなというふうに思うところありますので、広報の方も進めていかなければいけないのかなと思います。
鈴木委員	今のことに関して、そういう摘田・畑作の話もそうだし、あとは上尾市には土器などもあるけれども、そういうものが物置に保管されるのではなく、きちんと展示されるような博物館的なものがあつた方がいいという声を聞くのですが、上尾市で将来的に博物館のようなものを作っていこうという構想などはあるのでしょうか。
生涯学習課長	現時点では、博物館を作るという計画はないです。ただ、既存の施設の中で、複合化するとか、学校施設等の今後の状況等によって、そういった施設を検討していく必要があるのではないかとこのところを見ていきますので、現状では計画としてはないということです。 市民の方からそういったご意見をいただいているところですので、文化財などで上尾の歴史などについて紹介すること、上尾の今までの暮らしを市民の方、子どもたちに知っていただく、という点では重要な施設になるかと考えています。

鈴木委員	上尾の歴史を知っていただくという意味でも、空き教室の倉庫に入れてしまうのではなく、市民がもっと広く見れるような、そういう施設を複合でもよいので作っていかうという、大きな未来像みたいなものをぜひ持ってほしいと思います。
桑原委員	大石公民館などに、土器などを展示しているスペースというものがあるので、市民に見せたいものなどは、そのようなスペースに分散していろいろなところに置くというのもよいのではないかと思います。 箱をつくるという話もありましたが、なかなかすぐには計画も難しいと思いますし、この後のアンケートにもありましたが、遠くの施設は足がなくて行けないという方もいらっしゃると思いますので、近くの公民館などであれば見に行けるのかなとも思います。
生涯学習課長	公民館によっては、展示スペースがあって、置いてある場所があるところもあるのですが、全部ではないというところと、あとは不定期にはなるのですが、ギャラリー等を使って展示する機会を増やすことも必要かなと思っております。
首藤議長	ホームページなどで、そういうものを 3D で見ることができたり、昔の人はこれをこういうふうに使っていたということをバーチャル空間で見ることができたりするような取り組みはまだしてないですね。 それができたら Society 5.0、ICT 等の該当する取り組みになってくるのかなと思いますので、余裕がありましたら、そういうことを検討されてもよいかと思います。
生涯学習課長	3D ではないですが、文化遺産ガイドというサイトで公開をしています。そちらを発展させていきたいと思います。
中島委員	先ほどのコーディネーターの件、きちんと調べました。地域学校協働活動推進員とは、社会教育法第九条の七（※教育委員会は、地域学校協働活動の円滑かつ効果的な実施を図るため、社会的信望があり、かつ、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者のうちから、地域学校協働活動推進員を委嘱することができる。）にのっとり、教育委員会が委嘱をすることができると書いてありまして、その方はコーディネーターとして地域や学校の実情に応じた地域活動教育の企画立案をしたり、地域ボランティアの募集や確保をしたり、学校運営協議会へ参画する等と書かれています。
清水(カ)委員	公民館の講座を決めるのは、公民館の職員が決めているのでしょうか。
生涯学習課長	公民館の事業については、原則は公民館職員が皆さんの要望や、必要と考えるものを企画しています。
清水(カ)委員	上平公民館が古典に関する講座を多くして行きたいのですが、自宅から遠いのと曜日が合わないので行けないのです。上平公民館に古典に興味のある方がいらっしゃるのかなと思ったのですが。
生涯学習課長	できる限り、いろいろな分野を広くということはあるのですが、やはり

	企画する職員によって若干偏りが出ている部分是否めないです。ただ、この公民館でこの分野の講座をメインで行いますというわけではないです。 館長会議などで、偏りがないようにという話はしています。
首藤議長	大体御意見は出し尽くした感じでしょうか。 いろいろと御意見をいただきましたが、特に反対や修正のご意見はなかったと、私は認識しておりますが皆さんそのご理解でよろしいでしょうか。
委員	異議なし
首藤議長	ありがとうございます。 それでは、議案「(1) 令和6年度社会教育関係事業について」「(2) 令和6年度社会教育関係団体補助金について」につきましては、当会議として概ね妥当との意見とさせていただきたいと思います。 事務局におかれましては、今回出ました意見も参考に令和6年度社会教育関連事業につきまして進めていただきたいと思います。
首藤議長	(3)上尾市生涯学習に関するアンケート調査について 次に、上尾市生涯学習に関するアンケート調査について、事務局の説明をお願いします。
生涯学習課副主幹 首藤議長	＜上尾市生涯学習に関するアンケート調査について説明＞ ありがとうございました。大変な集計だったと思いますが、わかりやすくまとめてくださったかと思います。 委員の皆様、ご意見ご質問等ございますか。
曾我部委員	このアンケート結果というのは非常に重要な分析ができるのではないかと感じました。この664名の回答中、590名が50歳以上ですよね。そして70歳以上が500名近くいるわけです。 そうすると、今後の社会教育のあり方、生涯学習のあり方として、どういう内容にするのか、このアンケートを元に来年度の事業計画や、各公民館での講座等に取り上げてもらうといいのではないかと思います。 会議前半の話を聴いていて、本来、社会教育委員会の生涯学習の一環でやっているのですが、会議の内容が子どものことになっている。このアンケートにも出ているこの年齢層のことをこの会議で出ないまま終わってしまっている。 ですから、この分析のことは、各公民館とかにも出してもらって、内容等の充実を図ってほしいと思いました。
首藤議長	自由意見などを読んでいくと結構厳しい意見があり、参考になりますね。 これは来年度に、再来年度からの5カ年計画を立てなくてはいけないのですが、その参考資料になるかなと思います。 回答した方が70歳以上の方が多くですけども、ニーズを掘り起こすということも重要ですので、30代40代50代が参加できるようなそういう場を考えた計画を次は考えていきたいと思っています。

清水(マ)委員	資料 2 の、6 ページの問 7「あなたは、どのような世代を対象とした事業を充実したほうがよいと思いますか。また、その世代を充実させたい理由は何ですか」の「理由」のところが見当たらないのですが、どこにありますか。
生涯学習課副主幹	自由記述での回答だったのですが、「理由」に該当する回答がありませんでした。
清水(マ)委員	やはり年齢層の高い方のご意見がたくさん反映されていると思います。 同時に男性と女性の割合を考えると、男性が 30%、女性が 70% くらいの回答率になっていて、どの年代も女性の方が生涯学習に興味を持っているということがここからわかると思います。 それから、この問 7 に関連しているのですが、65 歳から 84 歳を対象とした事業で、やはり大きく声が出ているのがありますけれども、幼児から高校生くらいまでを対象とした事業も必要ではないかと思っているのではないかと思います。将来の大人を育てる意味で、どういう風に生涯学習が絡んでくるかということも考えていった方がよいのではないかと思いますしながらアンケートを見ていました。 そうしますと、資料 3 ページ、施策の柱 1-1 の「ライフステージに応じた学び」というところ、それから「学習スタイルに応じた学び」というところを、どのように今後考えていくのかということが、生涯学習をする上でも肝になるのではないかと考えています。ぜひ市民意識調査で出てきた、どのようなことを学びたいか、それから回答された方々の年齢層、希望というものをくみ取っていただいて、今後の事業を考えていただければと思います。
首藤議長	ありがとうございます。そのあたりはぜひ第 6 次上尾市生涯学習振興基本計画に反映していく必要があるのかなと思います。 この会議で決めるだけではなくて、ここで話し合ったものを上尾市の教育委員会でまた練って、教育委員会の意見をまた受けてこちらで審議するという、そういういろいろなこの流れになるのかなと思っています。
酒井委員	アンケート 12 ページの問 16 に「土日祝にも開催して欲しい」という意見が出ていますが、土日祝日はやっていないのですか。
生涯学習課副主幹	やっていないわけではないのですが、数は少ないと思います。特に、子ども向け講座は土曜日をメインに行っていますが、それ以外の講座についても土曜日にやっているものもありますが、数は少ないです。 土日に事業を行うと職員が平日に振替休日をとるため、公民館職員は通常 3 名しかいない状況の中、平日が手薄になってしまうことがあります。
酒井委員	それは利用者層にだいぶ影響しますよね。平日がメインということは、この回答者の年代層を常にターゲットにしているような開催方針なのかなと思っています。 若い世代に、平日の日中に来てくださいというのはなかなか難しいのではないかと思います。
生涯学習課副	現在計画されているものは平日メインになっています。今後の計画の中で、

主幹	土曜日の事業も検討してまいります。
近藤副議長	今出ていた理由が、毎回、公民館運営審議会の事業計画、事業報告で出る意見なのです。 公運審の委員の年齢層は、昔は若かったんですが、今は日本の人口構成と一緒に、上尾市も年齢が高くなってきて、そのままその当時に一生懸命活動をしていた人たちが、さらに今ずっと継続してやっているというような状況。 公運審で常に出てくる問題で、30代、40代向けの事業を計画しましょうか、どんなものに興味を持って実行したいのかということをいろいろ毎年聞いておりますから、そういうことを含めて事業計画を立ててみようかという話にはなるのだけれども。募集をかけても応募が少ない。昔は専業主婦等、家にいる人が多かったので、公民館講座等を受けていただくこともできたのですが、今は、夫婦共働きの世帯が多く、子どもも学童保育に通ったり、塾に通わせたりということがあって、非常に今悩ましいところではあります。 ただ、みなさんがおっしゃるように、解決はしていかななくてはならないということは承知していますので、今週もまた話をいたします。 それと先ほど出ていた話ですが、何十年か前までは、公民館の講座は比較的公民館職員の趣味嗜好が反映されがちで、そういう傾向があったことは事実です。その反省も含めて、上尾市の社会教育の体系的な取り組み方を考えなくてはいけないということから、この施策が出てきました。ですから、今は職員個人の趣味に偏ってということはほぼなく、現在はアンケートを取ったりしていますから、そういうものを反映させたりして、事業計画を立てていると思うのです。 ただ、市内全域に募集をしていますから、確かに西の端から東の端へというように移動しなくてはならないという方にとっては大変かもしれないと思います。逆に評判が良かったものは次の年は別の公民館で同じ講座をやるなど、工夫もしていたりするので、ぜひ公民館の方に直接ご意見をお寄せください。
首藤議長	日曜日の開催はやはり難しいですか。
近藤副議長	子ども中心になるとどうしても、土日や夏休みなどになるのですが、これもまた難しく、塾があるからとか、そういうことも結構多いのです。 ただ、子どもたちが興味を持つことをやればという話になるのですが、どの公民館も同じことやるわけにはいかないの。子どもたちの参加を促せるような工夫はしているのですが、やはり大変という感じはします。職員体制が3名しかいないです。3名で土日に出勤すると、平日も講座があると、なかなかお休みを取ることができないそうです。平日に交代で休みをとると、今度は平日の事業や事務作業に影響が出てきてしまいます。ということで人的な課題もあります。
首藤議長	わかっていた話ではありますが、しかしやはり、変わっていけばいいなと思いつつも難しい問題ですね。いろいろな問題が多いです。 いろいろと御意見をいただきありがとうございました。特に反対や修正のご意見はなかったと、私は認識しておりますが皆さんそのご理解でよろしいでしょうか。

委員	異議なし
首藤議長	ありがとうございます。 それでは、議案「(3) 上尾市生涯学習に関するアンケート調査」につきましては、当会議としては概ね妥当との意見とさせていただきたいと思います。事務局におかれましては、今回出ました意見も参考に事業に反映していただきたいと思います。 (4)その他
首藤議長	次に「(4) その他」について事務局の説明をお願いします。
生涯学習課長	特にありません。
鈴木委員	図書館の建て替えはどういう感じで進んでいるのか、少し聞きたい。
図書館長	現在、上尾市図書館本館につきましては、現在築 43 年になっていますので、図書館更新方針の策定に取り組んでいるところで、先日、5 月から 6 月前半にかけ、パブリックコメントを行ったところです。今後、教育委員会で審議に入っていくことになっていて、策定が終わった後に、実際の実務の方の調整に入っていく予定です。教育委員会は 8 月に予定しています。
鈴木委員	将来的にいつできるというのは決まっていないのですか。
図書館長	ある程度大まかなスケジュールとしましては、上尾市の公共施設等総合管理計画のその下のマネジメントでは、令和 12 年までに完了させる、建て替えるという中で動くということになっております。
首藤議長	以上で予定された議事は終了いたしました。 ご協力ありがとうございました。 5 閉 会
生涯学習課長	首藤議長、近藤副議長、ありがとうございました。 以上で予定された議事は終了いたしました。ご協力ありがとうございました。 これをもちまして、令和 6 年度第 1 回社会教育委員会議事を終了とさせていただきます。 (午後 4 時 04 分終了)